

国際人の育成 活発化

留学生と定期交流 海外研修の後押し

文部科学省がグローバル化に対応した英語教育を打ち出す中、鹿児島県内の教育現場でも、留学生との交流や海外研修への取り組みを積極的に行う学校が出始めている。共通するのは単に英語を学ばせるだけではなく、子どもたちに国際社会で生き抜く力を身に付けさせることを目的としている点だ。

県内小学校・高校

PO法人国際理解プログラム研究会の大重龍三理事長(67)。「外国人と話すのが当たり前になりつつある時代。物おしせず接するためには、小さいうちからの異文化交流が欠かせない」と語る。

大重理事長は鹿児島市郡山出身。旅行会社に勤務した経験から、郷里の子どもらに生きた英語に触れてもらいたいと、4月から区内の小学校や高校に県内の留学生を定期的に派遣する取り組みを始めた。

「ハロー」「ナイス トゥー ミートゥ ユー」。6月下旬、鹿児島市川田町の南方小学校。4～6年の児童7人が英語で元気にあいさつすると、ボランティアで講師を務めるパキスタン人のアニス・ウルレーマンさん(33)＝鹿児島大学留学生Ⅱは、児童1人1人と握手を交わした。

これまで留学生を招いた交流授業を2回実施した花尾小学校の松田衆治校長は「グローバル化社会では郷土の文化を相手に伝えることも重要とする動きもある。国際的に活躍できる人材を育てる『スーパーグローバルハイスクール



5年小谷源雅君は「イスタム国のような怖いイメージがあったけど、話を聞くと全然違った。英語を勉強してもっと話せるようになりたい」と話した。

鹿児島市の進学塾「MUGEN」は、塾内に海外留学に関する情報を提供する窓口を開設した。小牧聖社長(50)は「留学を通して国際社会で必要な自立心やたくましさを養ってほしい」としている。

塾でも留学支援

「MUGEN」(鹿児島市)に設立し、鹿児島市内で6のノウハウなどを提供する教室を運営。グローバル社会に対応した教育の一環と提議、今春窓口を設置した。対象は中高生や大学生、社会人などで、留学先はアメリカやカナダ、イギリスなど。和塾のスタッフらが必要と考え、全国の学習塾に進路支援としての留学用、滞在先での生活などに



留学生に英語であいさつする児童
＝6月25日、鹿児島市の南方小学校

という視点を学んでほしい」と期待を寄せる。

高校生の海外研修を後押しする動きもある。国際的に活躍できる人材を育てる「スーパーグローバルハイスクール」(SGH)として国の指定を受けた鹿児島市の甲南高校は本年度から台湾とイギリスにそれぞれ生徒約15人ずつを派遣し、現地の大学などで約10日間研修させる。生徒らは「人口問題」を学んだ後、各国に渡り、解決策などを英語で発表する。現地の若者とも意見交換する予定だ。

海江田修誠校長は「これからの社会は自己主張することが求められる。何となく分かってもらおうというのは通用しない」とした上で、「今回の派遣ではただ英語を覚えるのではなく、自分の意見を他の人にも理解してもらおう方法を身に付けさせたい」と一般的な語学研修との違いを強調した。

(五反田和美、加藤武司)

(加藤武司)